

New TDM850

根岸 廣介*

Hirosuke Negishi

小栗 幹夫***

Mikio Oguri

谷口 武司**

Takeshi Taniguchi

城本 真***

Makoto Joumoto

平野 文人***

Fumito Hirano

平野 和行***

Kazuyuki Hirano

1 はじめに

当社では、'91年に並列前傾2気筒850ccエンジンと、ユニークなスタイルに場面を選ばない走行機能を持たせた車体を組み合わせたTDM850を発表し、先進国市場各地で販売されてきたが、特に主要市場である欧州において、その万能的な性能と共に、類似するライバルを持たないという強みにより、定評を得てきた。

そこでデビューから6年目を迎えるに当たり、独特の強みを生かしつつ進化させた'96年モデルを開発したのでここに紹介する。写真1



写真1 TDM850

2 開発の狙い

前記のようにTDM850は独特の商品性を築いてきたモデルであるが、さらに今後もユーザーに愛され、完成度のより高いモデルとしてゆくために我々は以下のような開発の狙いを定めた。

- (1)イメージを一新するスタイリング
- (2)より力強く2気筒エンジンらしいパワーフィードバック

(3)今後の市場要求・使用実態にマッチした操縦性・高速安定性

(4)従来モデルでのコンプレインに対する改善

(5)モデルチェンジによる価格上昇は最小限に抑える

3 仕様概要

3.1 スタイリングと全体レイアウト

本モデルは企画の決定から生産立ち上がりまでが開発規模の割に短い設定であったことと、目指す商品性に充分こたえられるとの判断の下、従来モデルの車体の基本骨格は踏襲することを前提条件とした。その中で、カウル・タンク・シート・テールカウルといった外装部品の造形により、現在のデザインの流れである丸みを帯びたオーガニックフォルムとし、スポーツサングラスをモチーフとしたヘッドライトのデザインと合わせ、一目でニューTDMと分かり、かつキビキビとした新しい「走り」を予感させるスタイリングを造り上げた。写真2に造形の終了したクレーモデルを示す。



写真2 クレーモデル

3.2 エンジン

本モデルのエンジンの特徴は何と言っても、昨年春国内で発表され、続いて今春欧州にも導入されたTRX850と同じ270°位相クランクを採用

* モーターサイクル事業本部 第3プロジェクト開発室

** (株)GKダイナミクス

*** モーターサイクル事業本部 第2プロジェクト開発室

用した点である。従来モデルで採用していた360°位相クランクのエンジンでは等間隔爆発故の滑らかに吹け上がる力強さを特徴としていたが、前述の狙いのように、より2気筒らしい力強さとスポーティーな特性を得るために270°位相クランクに変更したものである。

さらにクランクのみならず、エンジン各部の諸元（カムシャフト・燃焼室回り・ミッションレシオ・クランクケース背面に設けたドライサンプ用オイルタンクなど）を実績のあるTRXに極力合わせ部品の新作を抑えている。

また、吸・排気系の一部見直しにより欧州の2次規制に対応した騒音の低減、スロットルポジションセンサ（TPS）の採用による適正な点火コントロールと燃費の低減など、細部に至る熟成を図っている。

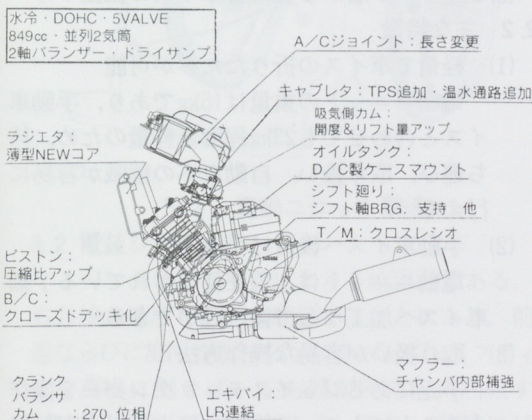


図1 エンジンフィーチャーマップ

3.3 車体

前述の狙いのように、より軽快なハンドリングと高い安定性を得るため、以下のような変更をした。

- (1) 重心位置を下げるため、バッテリーレイアウトの変更と前述の背面オイルタンクの採用。
- (2) ステアリング系を重心位置に近づけるためにフレームのヘッドパイプ位置を5mm後方へ移動。
- (3) 前後タイヤをバイアスからラジアルへ変更し、サス・セッティングも見直した。

また、従来モデルの弱点であったギアシフト時の不快なノイズを減少させるため、

- (1) 主要音源であった鋼板パネル構造のフレ

ーム、リアアーム内部に制振用のゴムダンパを圧入。

(2) 駆動系各部のダンパの見直しを図った。

さらに、シート形状やステップ位置の見直しによるタンデムライダーの居住性の改善、バッテリーの完全シールドタイプ・充電済み出荷によるメンテナンス性の改善、タンク容量を2Lアップの20Lとし、燃費改善と合わせて航続距離の増大、シート下に盗難防止用U字ロックの積載スペース確保など、機能向上とユーザーの使い易さに対して、細部に至る熟成を図っている。

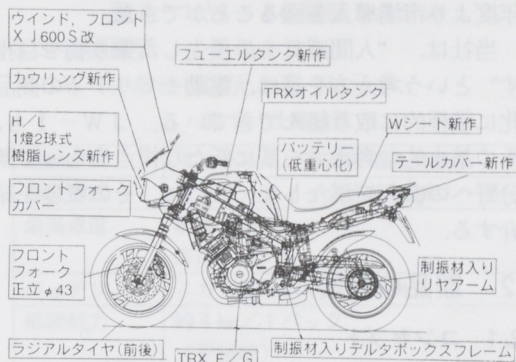


図2 車体フィーチャーマップ

4 おわりに

当モデルは'95年9月末、欧州でのニューモデル発表の皮切りとなるフランスのパリショウにてデビューしたが、従来のTDMらしさを残しながらも新しいフォルムのデザインが大変好評であった。当稿を書いている時点ではまだ本生産前であり、プレス発表試乗会などもこれからであるが、社内における数々の商品評価テストにおいて、当初我々の目指した開発テーマが十分に達成されているとの結果が得られているので、今後市場にて好評価をもって迎えらることを確信している。

最後に、当モデルの特色である新しいスタイリングについては、(株)GKダイナミクスの欧州での拠点であるグローバルデザイン社にも多大の協力をいただいたので、ここに紙面を借りてお礼申し上げます。